

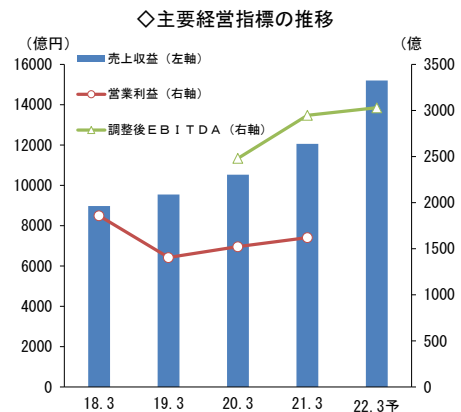
企業ニュース Zホールディングス

(東証1部:4689) <https://www.z-holdings.co.jp/>

作成者:高見澤晶子

ヤフーを中核とする持株会社

ソフトバンクグループ傘下、インターネットポータルサイトを運営するヤフーを中核とする持株会社。22.3期・第2四半期累計の売上収益構成比は、広告を手掛けるメディア事業40%、各種ECサービスを提供するコマース事業51%、決済や金融を中心とする戦略事業8%、その他1%。利益ではメディア事業の構成比が約6割と高い。2021年3月、コミュニケーションアプリを運営するLINEとの経営統合が完了。22.3期はLINEの情報管理問題を背景にデータガバナンスの強化を最優先としているが、期中に費用面で100億円規模のシナジーを見込むなど統合効果が見られ始めている。また、スマホ決済サービスのPay Payも利用者が増加するなど成長を続けている。



(注) 調整後EBITDAは20.3分より開示
22.3予はレンジの下限值、営業利益は非開示
(出所) Zホールディングス資料よりCAM作成

LINE統合効果と広告需要回復で増収増益

22.3期・第2四半期累計(4-9月)の連結業績は、売上収益が7,510億円、前年同期比35%増、営業利益が1,155億円、同18%増。会社が重要指標と位置付けている調整後EBITDA(営業利益+減価償却費および償却費±EBITDA調整項目)は1,872億円、同23%増。LINEとの統合、広告の需要回復などにより大幅増収。Pay Payを中心とした戦略事業も貢献した。調整後EBITDAは増収効果に加え、ヤフー子会社のワイジェイFXの売却益を計上したことが寄与した。なお、9月22日をもって従来の「ヤフージャパン ライセンス契約」を終了し、新たな契約において国内での「Yahoo!」関連商標権および技術ライセンスなどを取得した。

22.3期の通期会社計画は、売上収益が1兆5,200億円~1兆5,700億円、前期比26~30%増、調整後EBITDAが3,030億円~3,130億円、同3~6%増(営業利益計画は非開示)。調整後EBITDAの上期までの進捗は約6割と順調だが、会社は下期のメディア事業とコマース事業の成長が前年同期比で緩やかになることや、上期の投資が一部下期にずれ込んだことを踏まえて計画を据え置いた。下期にずれ込んだ投資はLINEとの統合に係るものがメインであるとみられる。

[株価動向・投資判断]

来期以降に本格化するとみられるLINEとの事業面でのシナジーに期待したい。

<4689 ZHD 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	1,052,943 (10)	152,276 (8)	135,676 (10)	81,675 (4)	16.9	8.86
21.3	1,205,846 (15)	162,125 (6)	142,615 (5)	70,145 (▲14)	14.0	5.56
22.3 予	1,520,000 (26)	- (-)	- (-)	- (-)	-	5.56

(注)22.3予の売上収益はレンジの下限值。営業利益、税引前利益、当期利益、1株利益は非開示。



[主要株価指標] (売買単位:100株)

株価(2021/11/26)	767.2 円
年初来高値(高値日)	839.6 円(21/11/22)
同安値(安値日)	438.8 円(21/5/13)
予想PER(22.3予)	— 倍
1株株主資本(PBR算出用)	355.3 円
PBR	2.16 倍
予想配当利回り	0.72 %
(1株当たり配当金5.56円)	
ROE(21.3)	4.1 %
発行済み株式数	765,632 万株